



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

地域おこし協力隊等よそ者の受け入れ体制を整え、未来
を見据えた地域おこし

多田 朋孔 (ただ ともよし)

特定非営利活動法人十日町市地域おこし実行委員会 理事・事務局長



○ 登録者情報

所在地

新潟県十日町市

略歴

“2002年3月、京都大学文学部卒業
2002年4月～、株式会社ベンチャー・リンク入社
2007年5月、株式会社ベンチャー・リンク退職
2007年6月～、株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング入社
2010年1月、株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング退職
2010年2月～、十日町市地域おこし協力隊委嘱
2011年6月～2015年3月、農林水産省の六次産業化プランナーに任用
2011年9月、内閣府地域社会雇用創造事業「農村六起」にてふるさと起業家として認定
2013年2月、十日町市地域おこし協力隊任期終了
2013年2月～、特定非営利活動法人十日町市地域おこし実行委員会事務局長
2015年5月～、新潟県人口問題対策会議「暮らしやすさ・定住促進戦略チーム」外部委員に任用
2013年7月～、地域サポート人アドバイザーに登録、各地で地域おこし協力隊向け研修会に講師として参加
2013年10月～、新潟大学「表現プロジェクト演習」で非常勤講師を務める
2014年8月～、農山漁村活性化支援人材バンクに登録、新田舎で働き隊向け研修会に講師として参加

【所属組織の受賞歴】

2011年度 地域づくり総務大臣表彰
2012年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞「内閣官房長官賞」
2013年度 がつとぎつとぐつと賞「ぐつと賞」
2013年度 第14回住みよい町づくり妻有ショッピングセンター環境大賞「環境賞」
2014年度 第5回地域再生大賞「特別賞」”

著書・論文等

“JBpress「地方創生を実らせるのは地域住民の本気を引き出す工夫～単なる補助金バラマキやコピペの地域活性化プランに終わらせるな～」
JBpress「本気で地方創生したいなら「脱・一律」の発想を～トップランナーの育成を全体の底上げにつなげるアプローチが効果的～」
JBpress「地方創生のあるべき姿：コンパクトシティー化だけでは不十分？～見落とされがちな「農地の多面的機能」とその貨幣価値～」”

○ 地域おこし協力隊等よそ者の受け入れ体制を整え、未来を見据えた地域おこし

取組の内容

十日町市飛渡地区の地域おこし協力隊として2010年2月～2012年2月まで活動しました。居住集落である池谷集落を中心とした任意団体十日町市地域おこし実行委員会を内閣府雇用創造事業「農村六起ビジネスプランコンペティション」に応募し、審査員からの認定を受けた上でNPO法人化し、ボランティア団体から10名の職員を雇用する組織にしました。

事務局長を務めるNPO法人十日町市地域おこし実行委員会では、以下5つの事業を行っています。

- ①農産物直販事業：自らも農作業に従事し、お米や野菜、農産物の加工品の商品化に組織ぐるみで取り組み、直販を行っています。
- ②体験交流事業：都会から農業体験や雪国体験に来る人達を受け入れています。
- ③移住促進事業：県や市とも連携しながらインターンシップの受入、移住相談会、移住希望者が情報を収集できるサイト「さとナビ」の管理、独自事業として池谷集落内に新規就農者育成住宅「めぶき」の新築工事を行っています。
- ④情報発信・農山漁村応援事業：視察受入や講演にて事例紹介や地域おこしにおける重要なポイントを整理して情報提供を行ったり、ふるさと回帰支援センターからの委託で6次化起業支援研修の現地パートナーとして起業支援も行っています。
- ⑤地域復興支援員設置事業：中越大震災復興基金事業である「地域復興支援員」の受け皿組織としてマネジメントを行っています。この事業は十日町市役所とのパートナー事業という位置づけで行っています。

十日町市地域おこし実行委員会の活動以外でも、地域おこし協力隊として担当した飛渡地区では任期終了後も地域おこし協力隊員との会議に隔週で参加し、公民館や飛渡地区振興会とも連携しながら地域おこし協力隊の活動のサポートを行っています。最初は飛渡地区の地域おこし協力隊員は多田1名でしたが、地域側が増員の要請をするようになり、現在は4名になっています。

実績

十日町市地域おこし実行委員会での取り組みのうち、①農産物直販事業においてはお米の個人への販売量は以下のように推移しています。

H2009年度産米8987kg、H2010年度産米9,281kg、H2011年度産米8,215kg、H2012年度産米8,253kg、H2013年度産米10,315kg

それ以外にお米屋さんへの販売量がH2012年度産米90俵、H2013年度産米120俵、H2014年度産米160俵と推移しています。

③の移住促進事業において、インターンシップをこれまでに24名十日町市内に受け入れ、そのうち7組9名が十日町市内にインターンシップ終了後も住んでいます。また、新規就農者育成住宅「めぶき」を新築で建設しており、その資金調達の一環としてクラウドファンディングを実施しました。結果、1,000,000円の目標に対し、1,486,000円の支援を頂く事が出来ました。

⑤の地域復興支援員設置事業では十日町市内の学校給食の地産地消を推し進め、市内の野菜の使用率を向上させました。取組前の2012年度は32.3%であったのに対し、2013年度は35.3%、2014年度は41.7%となりました。

食と農を考える飛渡の会の取組ではお米の販売先を見つけ、250俵の取引をまとめました。この事も影響し、食と農を考える飛渡の会の売上額は2012年度1,158,862円、2013年度円、2014年度8,558,254円と右肩上がりです。

工夫した点や苦労した点

十日町市地域おこし実行委員会の取組は集落の方々が高齢で「俺たちもあと何年元気でいられるかわからないので急いでほしい。」というプレッシャーを受けており、この点が苦労しています。委託事業や補助金も活用しながら自主事業できちんと収入を得て職員の給料を払いながら事業が回っていくようにしなければならぬのですが、「地域おこし」を目的とした団体なので、安易に収益を上げられる事業ばかりを行う事が出来ないのが大変です。工夫した点と言えるかわからないのですが、最初は自分がプレイヤーとして現場で直接取り組んだものを徐々に他の人に引き継いでいく形になっていると思います。今後はあまり自分が全面に出ないでも回る仕組みを作りたいと考えています。

ひとことPR

自分自身も元地域おこし協力隊員として活動をし、現在地域内に定住しているのでよそ者の考え方と地域内部の人の考え方が両方わかる事が強みだと思います。行政と外部人材だけが独り歩きするのではなく、地域ときちんと足並みをそろえた活動を着実にやっていく事に留意した取組ができると考えています。

○参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

○	1	地域経営改革	7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化	8	若者自立支援
	3	少子化対策	9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進	10	環境保全
○	5	定住促進	11	その他()
	6	観光振興・交流		

関連ホームページ

池谷・入山ガイド	http://www.iketani.org/
個人ブログ	http://ameblo.jp/tomoyoshi-tada/

連絡先

メールアドレス	tomoyoshi@tadafamily.com	その他	chiikiokoshi@gmail.com
---------	------------------------------------------------------------------------	-----	--------------------------------------------------------------------

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。

戻る